



聖学院大学 震災復興シンポジウム

聖学院大学と被災地の歩み

東日本大震災から10年を覚えて

2011年3月11日に起きた東日本大震災から間もなく10年の月日が流れようとしています。聖学院大学は、震災直後から学生・教職員が力を合わせ、被災された地域の皆様との関わりを持たせていただきました。今改めて、震災と私たちの10年の歩みを振り返るとともに、これからについてみなさまと一緒に考える機会として、本シンポジウムを開催させていただきます。



2021年

3/7 (日)

オンライン
開催
(Zoom)

13:30~16:30

対象者

一般、在学生、教職員、卒業生、その他関係者

主催

聖学院大学
聖学院大学ボランティア活動支援センター/地域連携・教育センター

申込はこちら

【申込期間】 2月8日(月)~3月3日(水)正午

下記HPよりお申し込みください。

<https://www.seigakuin.jp/events/210307shinsaifukkou>



QRコードからも
アクセスできます



Love God and Serve His People

聖学院大学

お問い合わせ 入試・広報課

TEL 048-780-1707 月~金(9:00~17:00)

✉ pr@seigakuin-univ.ac.jp ㊚ <https://www.seigakuin.jp>

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 FAX 048-725-6891



聖学院大学と被災地の歩み

～ 東日本大震災から10年を覚えて ～

プログラム [司会] 川田 虎男 (ボランティア活動支援センター)

| | | |
|--------|------------------------|-------------------------------|
| 13:30～ | 開会挨拶 | 清水 正之 (聖学院大学 学長・理事長) |
| 13:40～ | シンポジウムⅠ「聖学院大学と被災地との歩み」 | [進行] 平 修久 (聖学院大学 副学長) |
| 14:55～ | 釜石からのメッセージ | 市川 淳子氏 (釜石市鶴住居地区主任児童委員) |
| 15:05～ | 休憩 | |
| 15:15～ | シンポジウムⅡ「今、そしてこれから」 | [進行] 若原 幸範 (ボランティア活動支援センター所長) |
| 16:30～ | 閉会挨拶 | 渡辺 正人 (地域連携・教育センター所長) |

シンポジウムⅠ 「聖学院大学と被災地との歩み」 13:40～



蛭間 龍矢 (コミュニティ政策学科2011年度卒)

東日本大震災発災直後、宮城県石巻市で泥かき作業に従事するとともに、高校時代から取り組んでいるライフセーバーの資格を活かし、2ヶ月にわたって岩手県山田町での行方不明者捜索活動等に参加した。現在は株式会社行雲代表取締役として野外教育事業を展開している。



山口 雄大 (人間福祉学科2013年度卒)

復興支援ボランティアチームSAVE初代共同代表。釜石の復興の象徴である桜を届ける「桜プロジェクト」の発起人。復興支援活動を通して、地域の支えあいの重要性を実感し、現在荒川区社会福祉協議会に勤務。卒業後も現在に至るまで後輩たちの活動を見守り続けている。



菅野 雄大 (こども心理学科2018年度卒)

震災当時中学生で、宮城県仙台市において実家が被災。避難所生活を送る。全国から駆け付けたボランティアとの交流を通して、自身も復興支援のボランティアとして活動し、聖学院大学において復興支援団体STEP. を立ち上げる。現在会社勤めをしながら語り部活動を継続している。

シンポジウムⅡ 「今、そしてこれから」 15:15～



玉之内 菫 (心理福祉学科3年 復興支援ボランティアチームSAVE現代表)

1年生の春よりSAVEに所属し、現在代表を務めている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により活動拠点である岩手県釜石市での活動が叶わなかったが、「震災を風化させない」を合言葉に昨年夏オンラインスタディツアーを実施した。



山下 佑太 (心理福祉学科3年 復興支援ボランティアチームSAVE)

1年生の夏に参加した、復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト」がきっかけとなりSAVEに所属。活動を通じて震災の出来事を次世代に伝える大切さに気づき、昨年度には防災講座を企画し、母校である聖学院小学校や、中学校の授業の一環で講座を実施。